

住宅と造作材

Vol. 19

P

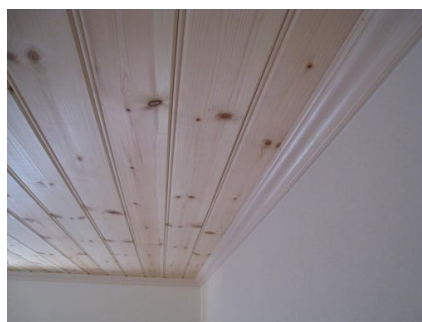
第 19 号のポイント

1. 造作材には接合部を覆うといった重要な役割もある。
2. 住み手が自分で作業できるような「つくり」も大切。
3. 木の動きや建具の調整用のクリアランスを隠す造作材！

?

筆者プロフィール

金井田晃央 (かないだあきお)
 1975 年 群馬県生まれ
 日本大学大学院 (建築・構造) を卒業後、スウェーデンへ渡る。
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを 10 年間務める。
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus” (河本ヒュース) の開発メンバーに携わる一人。
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
 筆者ホームページ:
<http://mala-gruppen.com>



パイン無垢材による造作材

巾木(左)・廻縁(上)・額縁&窓台(下)



パイン無垢材の造作材は、経年劣化が少なく、上質感が増していく...

Hejsan! 今回はスウェーデンの造作材についてお話します。巾木や廻縁、額縁(ケーシング)、窓台や天井パネルといったものを造作材と呼び、これらすべてパイン無垢材で形成されています。

巾木はフローリングと壁の接合部に、廻縁は天井と壁の接合部に、額縁は窓やドアといった建具と壁の接合部に用いられる造作材です。それぞれ独特の形状を持ち、太陽光や照明によって陰影ができ、上質な質感を生み出してくれます。最近の日本では、造作材が省略されてしまう家がほとんどですね。しかし、これら造作材は、デザインだけでなく、接合部を覆うといった重要な役割もあるのです!

例えば、巾木なら、フローリングを張った際、壁際の小口(切り口)は多少なりとも不揃いになります。壁紙や壁材も同様です。しかし、巾木で最後にその接合部を覆ってしまえば、内部は見えず、きれいに仕上がります。将来、壁紙を張り替える時も、巾木を外して壁紙を張り替え、再び巾木を戻す...といった使い方をすることで、住み手が自分でも作業できるような「つくり」となるわけです。

また、スウェーデンでは、フローリングや天井のパインパネル、窓やドアといった建具など、ほとんどが木製です。自然素材である木は当然動くものですし、建具には調整機構が欠かせません。実は、造作材の内部には、木の動きや調整に対応するため、10mm 程度のクリアランスも隠されています!このように、重要な役割をもった造作材は、スウェーデンでは省略されることなく、その形状を変え、最近のデザインに溶け込んでいます。次回は、スウェーデンのルーフィングをご紹介します。お楽しみに!

文責 金井田晃央 (筆者へのお問い合わせ先: info@mala-gruppen.com)

Innovatio : イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、
 全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。